

阿部吉雄・山本敏夫著「老子」新釈漢文体系7、明治書院、1966年10月30日刊を読む

1. 「三宝とは」

- (1) 私には三つの宝がある。
- (2) 私はそれを宝として奉持している。
- (3) ①その第一はいつくしみの深いこと、
②第二は儉約であること、
③第三は決して天下の人々の先に立とうとしないことである。
- (4) (慈母がその子の危難に際して驚くべき勇気を發揮するように)真に慈愛の心がある故に、よく勇気も湧き出るものである。
- (5) 儉約であればこそ広く人々に恵みを垂れることが出来る。決して天下の人々の先に立とうとしない。
- (6) だからこそ人々に慕われ推されて、よく人々の長になることが出来る。
- (7) それなのに、もし今慈愛の心を捨てて、しかもむやみに勇ましく振舞おうとしたり、儉約を捨てて置いて自己の勢力範囲をむやみに広大にしようとしたり、へりくだって人の後となる態度を捨てて置いて、人々に先んじようとしたりすれば、身を滅ぼしてしまうだろう。
- (8) そもそも慈愛の念から湧き起る勇気をもって戦えば勝ち、慈愛の念から湧き起る勇気をもって国を守れば、その守りは固い。天もこれを救ってくれるであろう。
- (9) だから民をいつくしむ愛情から湧き起る勇気をもって、私は国を衛^{まも}るのである。

P113

2. 顕質とは「質朴にして真実なるものを顕賞する」こと

- (1) 真実な言葉は美しく飾られてはいない。
- (2) 美しく飾られた言葉には真実がない。
- (3) 真に善き行ないをなす者は多弁を弄さない。
- (4) 多弁を弄する者は、実は善行をしていない者である。
- (5) 真に良く知っている者は、博識者ではない。
- (6) 雑多な知識を博く持っている者は、実はどれ一つとても真に良く知ってはいない。
- (7) (真に尊いものは真実と謙虚さである。)
- (8) 聖人は自分のために蓄積しない。
- (9) ことごとく人々のために尽くす。
- (10) かくも真実を尽くす故に、人々から感謝され、かえって自分がいよいよ多く所有するようになる。
- (11) 聖人は自分のものをことごとく人に与える。
- (12) その結果は、前と同様、かえって自分がいよいよ多く持つようになる。
- (13) 天の道は万物を利するのみで害することがない。
- (14) 同様に、聖人の道はすべての人々のためにし、しかもその功名を人と争おうとしない。
- (15) (それだからこそ、能く大事業を遂行し得て、天下の王となれるのである。)

P130

[コメント]

論語と並び称される中国の古典中の古典「老子」の一説。人が生きる上で価値として大切にすべきことは何かを考える上でとても参考になる。